

分科会

領域・研究課題

第1分科会 【組織・運営】

より親しみやすいPTA組織を模索し、地域社会との連携を通じて、子どもたちの健やかな成長と明るい未来を拓くための運営の方策を考える。

発表 京都府P・奈良県P

第2分科会 【生涯学習】

親も子も、生涯を通じて学びを見出し、自己研鑽し、地域との絆を深められるPTA活動を通じて、学校が生涯学習の拠点として地域協働を高める場となる方策を考える。

発表 大阪市P・大阪府P

第3分科会 【人権学習】

子どもたちが、それぞれの個性を肯定的に捉え「自分らしさ」に気付けることが大切である。

家庭・学校・地域において、大人たちが、自他共に排除しない社会を目指す取組を考える。

発表 神戸市P・和歌山県P

第4分科会 【青少年健全育成】

ネット社会の中で、情報を見極め責任ある行動がとれる力の育成が必要である。子どもたちが安心して生き抜くために必要な「人とつながる力」を育てるため、家庭・学校・地域の連携の在り方考える。

発表 京都市P・兵庫県P

第5分科会 【広報活動】

「未来は人と人が拓く」…親子の関係性や親と先生との役割分担など、対話ができる場所を広げるPTA活動を目指す。

日々の活動や成果、仲間作りに役立つ情報をより多く発信する活動を考える。

発表 滋賀県P・京都府P

第6分科会 【特別分科会】

子供たちと取り組む脱プラスチック

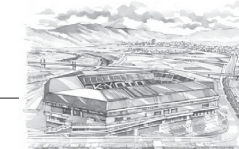
～かめおかプラスチックごみゼロ宣言の挑戦～

原田 禎夫 氏

- ・大阪商業大学公共学部准教授
- ・前亀岡市立安詳小学校PTA会長
- ・特定非営利活動法人プロジェクト保津川代表理事

分科会実践発表一覧

発表者名	役職名	所属単位PTA名	府県市	発表テーマ	発表内容
健太	会長	井手町立泉ヶ丘中学校PTA	京都府	学校・地域・保護者が協働して進めていくPTA活動	① 学校・地域・保護者が協働して進めていくPTA活動
貴志	会長	天理市PTA協議会	奈良県	オール天理の取り組み	② オール天理の取り組み ～天理市・天理市教育委員会・天理市PTA協議会の連携した協働の取り組み～
佳子	副会長	大阪市立大正北中学校PTA	大阪市	地域の子どものための中学校生活のために	③ 地域の子どものための中学校生活のために ～中学校区でできること～
新平	会長	吹田市立千里第二小学校PTA	大阪府	お父さんの楽しいコミュニケーション作り	④ お父さんの楽しいコミュニケーション作り ～おやじの会を通しての取り組み～
宏規	会長	神戸市立夢野中学校PTA	神戸市	東北神戸 ところの絆プロジェクト	⑤ 東北神戸 ところの絆プロジェクト ～被災地をつなぐところの交流～
有史	会長	新宮市立城南中学校PTA	和歌山県	オレンジリボン運動	⑥ オレンジリボン運動 子ども虐待防止運動から 学校・地域家庭の連携を深めるために
勢津	会長	京都市立松ヶ崎小学校PTA	京都市	新しい時代の市P連の役割	⑦ 新しい時代の市P連の役割 ～臨時休業期間中の「子どもたちの学習保障に関するアンケート調査による気づき～
豊光	会長	明石市連合PTA	兵庫県	健全に育つ豊かな環境づくりをめざして	⑧ 健全に育つ豊かな環境づくりをめざして
竜也	広報委員長	長浜市立長浜小学校PTA	滋賀県	保存しておきたい広報紙をめざして	⑨ 保存しておきたい広報紙をめざして
幹士	会長	京丹後市立峰山中学校PTA	京都府	ともに学び、ともに育ち、ともに楽しむPTA活動を目指して	⑩ ともに学び、ともに育ち、ともに楽しむPTA活動を目指して
禎夫	准教授	大阪商業大学公共学部 (前亀岡市立安詳小学校PTA会長)		子供たちと取り組む脱プラスチック ～かめおかプラスチックごみゼロ宣言の挑戦～	⑪ 子供たちと取り組む脱プラスチック ～かめおかプラスチックごみゼロ宣言の挑戦～



分科会

第1分科会
【組織・運営】

「学校・地域・保護者が協働して進めていくPTA活動」

井手町立泉ヶ丘中学校PTA

会長 森川 健太

P43

「オール天理の取り組み」

～天理市・天理市教育委員会・天理市PTA協議会の連携した協働の取り組み～

天理市PTA協議会

会長 市本 貴志

P45

分科会

第1分科会
【組織・運営】

「学校・地域・保護者が協働して進めていくPTA活動」

井手町立泉ヶ丘中学校PTA

会長 森川 健太

1 はじめに

井手町は、京都府南部に位置し、橘諸兄ゆかりの地としても有名である。春には玉川沿いの桜を見に多くの観光客が訪れる等、豊かな自然と古い歴史に囲まれた伝統ある町である。また、平成30年には井手町が舞台のロードバイクを題材にした青春映画が制作され、順次各地で上映された。

本校は、井手町に1つの中学校で生徒数は149名（令和2年度）の小規模校である。地域とのつながりも密接で、ふるさと学習やグラウンドゴルフ交流会等様々な行事で連携をしている。保護者も本校の卒業生である場合が多く、学校・地域・保護者が一体となって子どもを見守り、教育活動を進めている学校である。

2 PTA運営体制

(1) 活動方針（令和2年度）

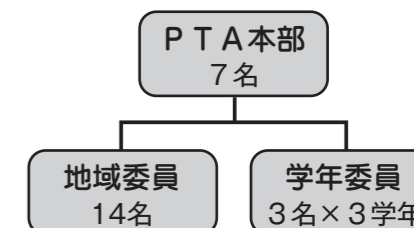
スローガン：「笑顔であいさつ、明るい学校生活」

重点活動

- | |
|----------------------------|
| (1) 子どもたちのやる気、生きる力を育む |
| (2) 子どもの学習成果や成長の様子を正しく理解する |
| (3) 会員相互の親睦をさらに深める |

(2) 組織体制

右記の組織体制に加えて地域委員14名と学年委員9名を4つの専門部、人権、育成、広報、健康安全に分け、様々な活動を進めている。



3 具体的活動

(1) PTAソフトバレーボール大会

学級ごとにチームを編成しソフトバレーボール大会を5月のPTA総会に合わせて実施している。PTA健康安全部が企画の中心となり、保護者・教員間の親睦が深まるように運営している。上位2チームは井手町のソフトバレーボール大会へ出場することができる。そこでは校種を超えた、保護者・教員の関係づくりが行われ、大きな盛り上がりを見せている。





(2) さわやかあいさつ運動

各学期に1回、朝の登校時にあいさつ運動を行っている。PTA育成部が中心となり、生徒・教員・保護者が昇降口に立ち「おはよう」の声をかけ、交流をしている。町内の3校で実施時期を揃え、一丸となりあいさつの大切さを訴えている。



(3) PTA合同美化作業

夏休み明けの美化作業を生徒・保護者が合同で実施している。

(4) 3世代交流グラウンドゴルフ交流会

地域のグラウンドゴルフ同好会の方を招き、中学生にグラウンドゴルフを紹介し、一緒に楽しんでいる。そこにPTA育成部も参加し、3世代での交流になることをねらいとし実施している。



(5) PTA共催人権講演会

12月の人権週間に合わせて毎年人権講演会を実施している。講演者の選定からPTA人権部と連携して行い、生徒の現状に即した人権問題への講演会を実施できるようにしている。講演会当日は保護者の参加も有りとし、親子での研修の場となるように心がけている。

(6) 広報誌「かけはし」の発行

毎年1回、PTA広報部が中心となり広報誌「かけはし」を発行している。内容は保護者の意見を取り入れ、生徒自身の声や作品が多く掲載されるように心がけている。

4 成果と課題

(1) 成果

PTA活動の目的は行事をこなすことではなく、活動の中で保護者同士のつながりを深めたり、学校に保護者の思いを（気軽に）伝えたりできる機会を確保することだと考えている。本校のPTA活動では「できることをできる人がする」を基本に、行事をこなせばいいという考えではなく、取組の中での保護者・学校の意見交流を大切に目的に沿った活動ができていると思う。今後も学校と家庭のつながりを切らすことなくPTA活動を続けていきたい。

(2) 課題

PTA活動は活動の質向上とPTA役員負担の軽減を両立させることが今後の課題であると考えている。PTA役員が負担にならない範囲で、充実した活動を行っていくためにはPTA会員や教員の声に耳を傾けながら従来の形にとらわれない、新しい活動を模索していく必要がある。役員数や行事の内容見直しなどを絶えず実施し、よりよいPTA活動を進めていきたい。

分科会

第1分科会
【組織・運営】

「オール天理の取り組み」

～天理市・天理市教育委員会・天理市PTA協議会の連携した協働の取り組み～

天理市PTA協議会

会長 市本 貴志

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全世界が未曾有の状況に陥り、本市においても例外ではなく、「緊急臨時休校」や「緊急事態宣言」「withコロナ時代の学校生活」など私達は今まで経験のしたことが無い対応に迫られています。しかし、一番大きな影響を受けているのは子ども達だと感じています。共にこの困難を乗り越えて参りましょう。

1 はじめに

天理市（てんりし）は奈良県北部に位置し、中心部に天理教関連の施設が集中していることなどから宗教文化都市として知られており、日本で市名に宗教団体の名称が使われた全国初の自治体でもあります。1954年（昭和29年）4月4日、6か町村の合併により天理市が誕生しました。日本最古の主要道路といわれる「山の辺の道」に沿った地域でもあり、現在はJR桜井線、近畿日本鉄道天理線、国道24号、25号、169号、名阪国道、西名阪自動車道の通じる交通の要地となっています。

2 天理市PTA協議会の組織

天理市内には幼稚園・小中学校・高校・養護学校が数多くありますが、市内の広範囲に関わるなど各校園の単位PTAでは実現が難しい物事を実現するために協議するのが天理市PTA協議会の役割です。単位PTAの活動に役立つ啓発イベントや、市内校園の保護者交流のためのイベントを行っています。

尚、本市の市PTAには市内の公立・私立の幼稚園、小学校、中学校、高校、養護学校が参加して頂いております。

また、市PTAの事務局は市役所内にある教育委員会事務局内にデスクを配置し、市PTA専従の事務局員（有償）が週2回出勤して頂いており、幼小中の学校の先生方が教育委員会にお越しになられることも多く、市PTAの事務局には立ち寄りやすく幼小中の先生方とは連絡や相談もスムーズに行われています。



左から並河天理市長、天理市PTA協議会大西前会長、天理市PTA協議会市本会長

3 オール天理の取り組み

天理市PTA協議会の特徴と思われることを少しご紹介させて頂ければと思います。

「オール天理の取り組み」と表題にも書かせて頂きましたが、例えば天理市PTA協議会では、年度初めの市PTA総会と年末に行う市PTA教育講演会には、行政からは市長が、議会からは議長と教育行政担当の文教厚生委員長が、教育委員会からは教育長をはじめ事務局長及び各課長が全員ご出席くださいます。市PTAからは役員理事をはじめ各单位PTAの会長と副会長に幼小中高の校園長の先生方ご参加くだ



さいます。総会及び教育講演会の式典後の懇親会においても皆様にご参加を頂き有意義な懇親の場となっております。

「コロナ禍」において本年度は総会や市PTAの各種行事が中止になっておりますが、コロナ禍において全国の各自治体・各教育委員会や学校の取り組みは様々だと思えます。首相の「緊急臨時休校」が発表された以降は、市長から携帯電話に直接連絡を頂き、休校や給食の対応など多岐にわたり何度も連絡を取り合いました。また、生徒とご家族全員が新型コロナの陽性感染者となられた時は、その学校に出向き校長先生と教育委員会と一緒に対応をしました。生徒やご家族に差別事象が出ないようにとの思いで、市長と教育委員会には対策をお願いしました。

受験を控えた市内の中学3年生に対し「中学3年生向け夏休み学習会」を教育委員会が開催をしていただき、市PTAとしては天理こども食堂にご協力をお願いし、会場となる教室に役員・理事・事務局のメンバーが出向き、午前の学習会終了後に、参加者の生徒一人ひとりにサンドイッチと焼きそばパンとドリンクの配布を行い、教育委員会や学校の先生方と連携をした取り組みを行いました。

市PTA事務局が教育委員会内にあることもあり、教育長室には週1回はお伺いをしています。コロナ禍において運動会や修学旅行などの学校行事及び単位PTA会長からの意見や要望事項などが主な内容です。逆に、教育長からは今後の取り組みたい内容について相談があったりするなど連携をした取り組みを行っています。

4 今後の展望

日本は今、世界でどの国も経験したことが無い超少子高齢化社会にあります。当然、児童生徒の数も少なくなってきました。就学前の待機児童問題や学童の増設にみられるように、現代社会では共働きのご家庭が少なくありません。多様化する中で、PTA活動や各種会議に参加して頂ける保護者様が少なくなっているのも事実だと感じています。PTAの在り方や、運営方法についても検討をしていかなければならない時期に来ていると私自身は感じています。

保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5第1項）を好機と捉え、PTAが家庭・学校・地域の架け橋となり、行政、教育委員会と連携をして、子どもたちの将来に夢と希望の持てる社会を創造するためのPTA活動に取り組んでまいります。



昨年度の天理PTA協議会教育講演会



分科会

第2分科会 【生涯学習】

「地域の子どもたちの中学校生活のために」

～中学校区でできること～

大阪市立大正北中学校PTA

副会長 橋本佳子

P48

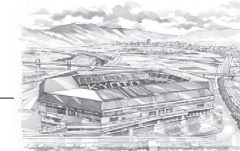
「お父さんの楽しいコミュニティ作り」

～おやじの会を通しての取り組み～

吹田市立千里第二小学校PTA

会長 中村新平

P52



「地域の子どもたちの中学校生活のために」

～中学校区でできること～

大阪市立大正北中学校PTA

副会長 橋本佳子

1 はじめに

大正区は区全体が川や大阪湾に囲まれた島状の地形となっています。両側の河川で渡船が合計7か所あり、現在でも無料で区民の生活の足となっています。過去は再三台風や高潮の被害を受けており、区役所前には災害時の石碑があります。区画整理や防潮堤の整備で水害の被害はなくなっていますが、南海トラフ地震では建物の3階まで津波が来るといわれているため、防災訓練に力を入れています。町工場等、工業が減退傾向にあり大正区は大阪市24区の中で最も人口の少ない下町情緒あふれる区です。

大阪市立大正北中学校は、昭和53年4月に、大正区で一番新しい4つ目の中学校として開校しました。以来40年以上にわたり「明朗、活発」「自主・協力」「克己・敬愛」の教訓のもと、子どもたちは学習や学校行事、クラブ活動を頑張っています。生徒数は387名、1、3年生は4クラス、2年生は3クラス。中学校区の児童数は減少していますが、スポーツ系クラブ活動に人気があり他中学校区からの入学者が多く（今年度約20名）、生徒数は減少していません。

以前は荒れていましたが、現在はとても落ち着いており、来校者があると生徒は元気よく大きな声であいさつを行うので地域の方からの好感度が高いです。



2 組織、活動について

(1) 組織

- ・役員→会長、副会長、会計、書記、会計監査の計10名で構成
- ・委員会→学級、地域、広報、人権、保健体育、成人教育の6委員会で計43名

(2) 地域との活動

防災訓練では、地域の方に誘導等を行っていただき、PTAは炊き出しを行います。

もう一つの地域との活動は、数十年前、かなり学校が荒れていた時に、警察、青少年指導員、教職員、PTAとで「北中少年を守る会」を発足させ、今でもその会で年2、3回夜に自転車で巡視を行っています。ここ数年は巡視の途中で生徒を見掛けることもなく声をかける必要はありませんが、地域とつながる活動として継続して行っています。

地域との活動は上記の2つくらいで、あとは式典に来賓として参加していただく程度です。

中学校区の2小学校は地域とのつながりは深めですが、中学校では地域と関わる行事が少なく、つながりは薄くなります。

3 事例 地域の子どもたちの中学校生活のためのフェスタ

(1) 三校合同フェスタの変化

約10年前から本校と、中学校区の2小学校とで交流を図るために研修会を始めるも参加者が少なく苦戦。子どもたちが喜び参加できるものを企画しようと、5年前から3校輪番制で毎年テーマを決め、食育で地域の和菓子屋さんに参加してもらい和菓子作りをしたり、アフリカの文化に触れる活動をしたり、毎年趣向を凝らし開催しました。開催が2学期のため、特に小学校のPTAは忙しく、やりがいを感じつつも、かなりの負担になっています。負担を軽減するため行事の少ない中学校PTAが担当するのがよいのではと話が出て、小学校の会長も経験している前会長が、その負担をなくすべく2年前に案を練りました。今までのものでも研修会形式の時より小学生の参加者は増えたものの中学生の参加者は、ほぼなく中学校PTAとしては寂しい思いがありました。

案として、

- ・中学生が参加しやすい中学校舎で開催。
- ・土曜日午前中9:00~11:30に開催（中学生は片づけ終了の12:30まで）。
- ・スポーツ系クラブが盛んな中学校なので、いろんなクラブを体験してもらう。

今までの小学校6年時のクラブ体験では、一つのクラブしか体験できなかったが、ほとんどのスポーツ系クラブを体験できる。

- ・普段入ることのない中学校に足を踏み入れてもらう。

数年後に通う中学校の生徒は、とてもやさしく頼もしいことを実感してもらえ、小学生の保護者にとっては中学校の雰囲気を感じ、中学校を身近に感じる ことができる。

(2) 第1回開催に向けて

近年、3校のPTAは大正区PTA協議会（大正区内の小中14校）で仲良く連携がとれています。その強みを生かして、会議ではいろんな意見を発言することができ、幹事校の中学校が独断で考えるのではなく小学校PTAの意見をふんだんに取り入れ低年齢からスポーツ体験を楽しめるよう各ブースで初級、上級バージョンを用意しました。

・スポーツクラブ系

- | | |
|---------------|----------------------|
| ラグビー部→ゴールキック | 野球部→リアル野球盤 |
| テニス部→ストラックアウト | バスケット部→フリースロー |
| 卓球部→ラリー | バレーボール部→ソフトバレーボールラリー |

・その他

大縄跳び・理科実験（中学校の先生が担当）・百人一首・景品交換所

たくさんのブースを円滑に回すためお手伝いが必要ですが、各クラブの先生たちが部員達に声をかけてくださり中学生で約50名のお手伝いが集まりました。各校のお手伝いもあまり苦勞せず目標通り集まりました。

結果、当日の小中学生の参加者178名でした。（目標300名）

(3) 第2回開催に向けて

第1回開催後、PTAのお手伝いの方にアンケートをとりました。楽しかったという意見が多くありましたが

- ・開催が12月で雨だったので、とても寒かった。
- ・子どもたちから、もっと長く遊びたいとの声をよく聞いた。



- ・中学生のお手伝いがたくさんいたので、あまりすることがなかった。
- ・スポーツの苦手な子どもが楽しめるブースが少なかった。
- ・お手伝いの休憩時間がなかった。

上記の意見が改善の必要な点でした。それを改善するため第2回開催に向け3校で意見を重ね

- ・開催は10月下旬（寒さを軽減）
- ・開催時間を延ばし遊べる時間を増やして、お腹がすかないようおにぎりブース（食育を兼ねる）をつくる。
- ・PTAのお手伝い人数を減らし、行事の多い2学期のお手伝い負担を軽減。
- ・室内の格技室に子どもの遊び場ブースをつくり、スポーツが苦手な子や低学年の児童がゆっくり遊べるようにする。
- ・PTAのお手伝いの方が一斉に休憩できる時間を作り、その時間に参加者全員でピンゴ大会を行う。

以上のように改善し、開催に向け準備しました。

(4) 第2回 開催当日

参加者は合計203名。前年より20名程度しか増えませんでした。他中学校区からの児童参加人数も増えていました。大正区PTA協議会で宣伝をした効果と考えられます。当中学校のクラブ活動をはじめ生徒のいいところを見ていただき開かれた学校のアピールにもなりました。

第1回の時は、閉会式まで残る児童は少なかったのに、開催時間が伸びた第2回では、たくさん子どもたちが最後まで残っていたので長時間飽きることなく、お腹を空かすことなく、楽しく遊ぶことができたと思われまます。

中学生たちは前年度同様8時に登校し、各自の手伝いが終わり手が空くと「なにかすることないですか?」と積極的に手伝いをしてくれました。開会后、各ブースに小学生が来ると受付からいろいろとPTAがすることも手伝いながら、各自担当の手伝いもこなしていました。無理やり手伝ってる感なくフェスタを楽しんでいるのが伝わってきました。また、担当ブース内で交代しながらブースを回っているとき、生徒たちは、ほんとに楽しそうにいい笑顔でいろんなブースを体験していました。



地域の方も各小学校会長からの声掛けにより数人来られ、式典や防災訓練の時とは違う生徒を見ていただくことができ、好感を持っていただきました。

生徒と会話するまではいかなくても、おほこく素直な生徒たちと感じていただけたと思います。

4 おわりに

小中学生が、合同で楽しめるイベントとして変化する中で、地域と希薄な関係の中学校とつながりを深めるきっかけにもできたらと考えています。毎年、多少のブース

内容を変更して変化をもたせ、飽きのこないイベントにし、地域の方にも来ていただくことで街で生徒を見かけた時など、見守っていただけることにつながればと思います。関係が深まれば、南海トラフ地震が起こった時など保護者だけでなく中学生も地域の一員として助け合いができるコミュニティになれることを願っています。



「お父さんの楽しいコミュニティ作り」 ～おやじの会を通しての取り組み～

吹田市立千里第二小学校PTA

会長 中村 新平

1 はじめに

我がまち吹田市は、大阪府の北部に位置し、JR線、大阪メトロ御堂筋線、阪急線などの公共交通機関の乗り入れ、名神高速道路、中国自動車道などの高速道路が通り、交通の便が良く、ベッドタウンとして発展してきました。1970年には日本万国博覧会が開催され、6400万人もの人々が吹田市を訪れました。

吹田市には、アサヒビール工場などの大きな企業に加え、大阪大学、関西大学などがあります。昼間と夜の人口があまり変わらないのも特徴の一つです。また、少子高齢化が進むなか、吹田市の子どもの人数は今後も増えていくことが予想されています。そのため、一部の学校では教室不足が懸念されており、その対応について検討が始まっています。

今回の舞台となる千里第二小学校は、昭和4年（1929年）に創立。阪急電車千里線の千里山駅から東500mに位置し、全校生徒約940人の学校です。

2 おやじの会の概要

今回テーマとしている「千二おやじの会」は、千里第二小学校の保護者を母体として、当時のPTA会長が2013年に設立。設立当初から、PTAや地域の行事の手伝いを行ってきましたが、近年は児童や保護者からのニーズに応え、『できる時に、できる人が、できる事をする』を合言葉に、その活動を広げています。

(1) 2013～2017年度

1月 あそびにおいで！ 5月 子どもカーニバル 7月 セブティイベント
8月 夏まつり 10月 星を見る会
その他、PTAや地域の行事の会場設営（前日設営、当日の手伝い）

(2) 2018年度～（追加内容）

バドミントン（月2回程度）、バスケットボール（月3回程度）、
サッカー（月3回程度）

(3) 2019年1月～（追加内容）

おやじのはたけ（は：発見、た：体験、け：経験）

おやじの「はたけ」とは、子どもの隠れた才能を「発見（は）」するために、楽しい「体験（た）」をたくさん「経験（け）」させることです。学校の授業だけでは得られないことを保護者（地域）の協力のもとに、子ども達に伝えていくことを目的としています。「味噌づくり体験」「トイレデザイン」など色々な意見を出して、一人では無理だけれども、みんなであれば楽しそうな企画、子どもに体験して欲しい企画を「発案」してもらい、少年の心を持つおやじの会のメンバーで、それを全力で実現しています。

3 おやじの会の活動をやってみて

おやじの会の設立当初は、次のPTA会長の補佐といった意味合いが強かったですが、現在は「おやじ」達の交流の場となっています。実際に活動をやってみて、

(1) 良かったこと

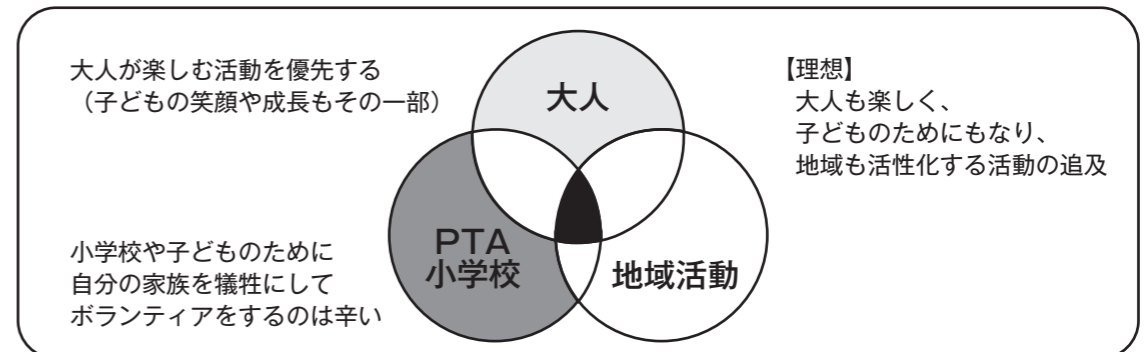
- ・これまで面識の無かった保護者の方との交流ができるようになる。
- ・趣味の共有、家族ぐるみの付き合いが増える（釣り、サッカー、アウトドア、旅行など）。

(2) 困っていること

- ・活動場所の確保が難しい。
- ・公共施設の予約が難しい。
- ・金銭的な負担があります。

4 おやじの会の課題

おやじ達がワクワクするような活動を行っているおやじの会は、あくまでもボランティア活動です。もちろんおやじ達にも家庭があります。自分の家族を犠牲にしてまで、小学校や子ども達のために活動が続けるのは辛い部分も出てきます。おやじの会を今後も継続していくためには、このバランスがポイントとなります。



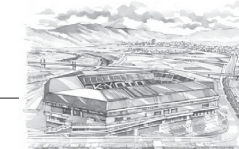
上記の理想を実現するには、

- ・できる時に：あくまでも家族優先。1人で1時間ではなく、12人で5分ずつ
 - ・できる人が：得意分野、やりたいことを自発的に実行できる雰囲気作り
 - ・できる事をする：飲み会だけの参加もOK。義務感、罪悪感の排除
- この3つの愛（合）言葉を忘れず、お互いが無理のない範囲で、楽しく活動を行っていくことが重要と考えます。

5 おわりに

現在、新型コロナウイルス感染流行に伴い、ここ半年はほとんど活動が行えていない状況にあり、とても残念に思っています。早く事態が終息することを心より願っています。

少年の心を持ったおやじ達が、子どもと一緒に楽しんでいる、時には子ども以上に無邪気に楽しんでいる。そんなおやじ達の姿、背中を見て、今の子ども達が次の時代を、地域を支える大人（おやじ）となっていくと信じています。



分科会

第3分科会
【人権学習】

「東北神戸 こころの絆プロジェクト」
～被災地をつなぐこころの交流～

神戸市兵庫区PTA連合会 神戸市立夢野中学校PTA
会長 古場 宏規

P55

「オレンジリボン運動」

～子ども虐待防止運動から 学校・地域・家庭の連携を深めるために～

新宮市立城南中学校育友会
会長 金田 有史

P58

分科会

第3分科会
【人権学習】

「東北神戸 こころの絆プロジェクト」
～被災地をつなぐこころの交流～

神戸市兵庫区PTA連合会 神戸市立夢野中学校PTA
会長 古場 宏規

1 はじめに

神戸市は兵庫県南部に位置する県庁所在地である。人口は約150万人で、全国8番目の大きな都市で政令指定都市である。海と山の迫る東西に細長い市街地を持ち、神戸港を有する日本を代表する港町である。貿易・鉄鋼・造船・観光等の産業を中心に発展し、ファッション・医療・食料品などの産業も盛んで、ユネスコのデザイン都市に認定されている。

戦後の高度経済成長期には、市街後背部の山地より削り取った土砂を用いて、ポートアイランドを代表とする人工島を臨海部に埋め立て造成し、商工業・住宅・港湾用地として整備した。1981年には地方博の先駆けとなる「神戸ポートアイランド博覧会（ポートピア'81）」を成功させた。

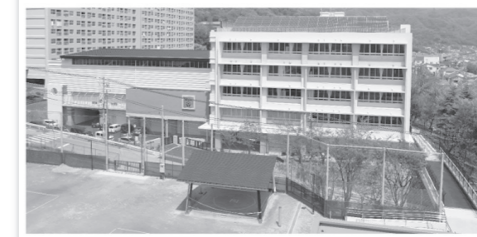
平成7年1月17日に未曾有の阪神・淡路大震災が発生し、神戸市は甚大な被害を受けた。その後の迅速な震災復興により、低下していた貿易額は回復する傾向にある。一方で、震災後人口の減少が続き、現在は政令市で7番目となっている。

神戸市立夢野中学校は、神戸市の中央南部に位置している。昭和23年4月に開校し、創立74年を迎えている。全校生徒が1000人を超える時期もあったが、現在は各学年3クラスの100名前後で合計300名の規模となっている。校区の4つの小学校が統合するのに合わせて、8年前に移転して新築された。5階建ての美しい校舎で、神戸市で唯一、校内敷地に土俵を持ち、全館の照明や冷暖房もスイッチ一つで制御することができる最新の設備を有している。

「まことの人となれ 友人を愛する人となれ 文化を進める人となれ」を校訓とし、人と人との絆を大切にしながら、「心豊かで主体的に学び、たくましく生きる人を創る」ことを学校目標としている。また、地域は街づくり協議会や防災コミュニティを中心に活動が盛んで、学校、PTAとの連携も密接である。その取組の一つとして、毎年3学期の土曜日に学校公開デーを企画し、社会福祉協議会とも連携しながら、地域やPTAの保護者が講師となって、3年生には「社会保障学習」、2年生には「防災学習」、1年生には「市民救命士講習」の授業をしている。

校訓

- 一・まことの人となれ
- 一・友人を愛する人となれ
- 一・文化を進める人となれ



2 夢野中学校PTA活動について

平成10年頃から、生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導者が不足するため、部活動数の削減が計画された。その際、当時のPTA会長が保護者代表として学校長に部活動の縮小に関し、協議することを申し入れた。平成11年、学校長とPTA会長が中心となって「部活動に関する協議会」を立ち上げ、部活動に関しては、学校任せにせず、保護者が部活動を支援、協力していくこととした。



人材バンクを設けて、必要に応じて、技術指導ができる外部指導員を地域から募集し、導入することとした。

平成12年度のPTA総会で「夢野中学校教育・部活動基金」を設立することが承認され、部活動だけでなく、学校教育全般に対して支援を行っていくこととした。

平成13年度より、名称を「ゆめの心のふれあい支援事業推進協議会」として現在に至る。

今年度も、「ゆめの心のふれあい支援事業推進協議会」を充実・推進し、会員の意識の向上を目指し、会員自ら楽しく行動することを基本に諸事業に取り組んでいくことを確認している。

3 東北神戸 ころの絆プロジェクト

平成23年の東日本大震災の発生後、兵庫区5校の中学校が神戸市教育委員会の助成を得て「東北復興」に向かって支援を実施してきたが、6年目より委員会の支援がなくなり、平成28年度「こうべっ子の家庭・地域教育活動助成基金」「兵庫教育協会」「神戸ウエストライオンズクラブ」「兵庫区各中学校PTA」からの助成を受け、学校長2名、教員3名、PTA会長2名、生徒15名（各校3名ずつ）の計22名が7月末より2泊3日で、以下のように、宮城県を中心に学校間交流・被災状況の視察・仮設住宅での被災者との交流等を行った。昨年度で5回目の実施となった。

(1) 実施日

令和元年7月29日（月）～31日（水）

(2) 費用

こうべっ子助成基金、兵庫教育協会、神戸みなとライオンズクラブに支援を依頼
※個人負担は最終日自由行動中の昼食代金とお土産代金のみ。

(3) 旅行行程

7月29日（月）神戸空港発→仙台空港→東北大学訪問→荒浜小学校視察→石巻市立万石浦中学校との交流→牧浜地区視察→ホテル

7月30日（火）ホテル周辺散策→被災工場「ヤマサコウショウ」視察→新西前沼第二復興住宅訪問・交流→南浜・門脇地区視察→日和山地区視察→ホテル

7月31日（水）ホテル→女川地区→大川小学校視察→仙台空港→伊丹空港着→神戸市内へ

プロジェクトの最大の目的である、被災者の交流については、神戸に戻った後、作文集を作成して送付したり、生徒と手紙や年賀状のやりとりが続けられたりする中で、「ころの絆」が固く結ばれ、次年度以降もこのプロジェクトが継続するよう、被災者からの声が届いている。また、各学校の文化祭のステージや展示で生徒、保護者に報告したり、区役所のホールを使って「ころの絆プロジェクト発表会」を実施し、一般の方々に現地で見聞きしたことを伝えたりした。毎年、新聞社やテレビ局等の取材を受け、広報活動も充実している。

ただ、残念ながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施は見送ることとなった。



4 終わりに

夢野中学校は、目指す学校像として「ころの絆を大切にしている学校」を掲げている。卒業後も地域に根付いて、地域を支える担い手になる生徒たちが、人権を尊重し、心の豊かな人間に成長するよう、学校・地域・PTAが連携して支援していく。

未曾有の大災害を経験した神戸も時が過ぎて、その経験が風化していく中で、若い世代に「防災・減災」の意識を伝えていくことが必要とされていた。参加した生徒だけでなく、周りに広く広報もできたことで、「東北神戸ころの絆プロジェクト」は大きな成果を残していると言える。ただ、課題として、新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、今後は別の形での交流も模索していく必要があると思われる。

前述の「ゆめの心のふれあい支援事業推進協議会」を立ち上げ、学校を支援してきた本校PTAの諸先輩の意思を引き継ぎながら、今後も生徒たちのために最大限の尽力をしていきたい。



「オレンジリボン運動」 ～子ども虐待防止運動から 学校・地域・家庭の連携を深めるために～

新宮市立城南中学校育友会

令和2年度会長 金田 有史

1 はじめに

新宮市は和歌山県、奈良県ならびに三重県の県境が隣接する紀伊半島の東南部に位置します。人口約2万9千人であり、少しずつ人口が減少する中で、子どもの数も減少傾向にあります。新宮市立城南中学校の校区には太平洋に面した王子ヶ浜と呼ばれる浜辺があり、天然記念物アカウミガメの産卵場所としても知られています。歴史的には、神武天皇東征の際には新宮市にも訪れており、熊野神邑（くまのかんのむら）とも呼ばれ、熊野信仰の中心都市として栄えてきました。明治以降には、熊野材の生産地として、また、製紙業や製材業で繁栄した歴史を持ち、現在まで、熊野地方の行政、経済、文化、教育の要として発展してきました。

平成16年には、世界遺産に熊野三山のうちの一社「熊野速玉大社」や熊野参詣道中辺路のうち「高野坂・大雲取越・小雲取越・熊野川」などが登録されました。新宮市の文化人として代表的な佐藤春夫も、『望郷五月歌』の中で「空青し山青し海青し…」と口ずさんだように、空・山・海、そして川が織りなす大自然に囲まれたすばらしい環境にあります。

城南中学校は、現在、全校生徒数171名であり、全学年2学級の中規模校となります。学校の先生方は『熱い心で向かい合い授業で学級で活動で耕す』を合言葉に、毎日、子どもたちとともに心の通った教育活動に取り組んで下さっています。平成25年度には文部科学省委託和歌山県人権教育研究推進事業を受け、すべての生徒を大切に、豊かな人間性を育む学校づくりについて研究を進めてこられています。その際に発足した3部会、授業研究部・生徒指導部・人権教育部を元に学校教育目標達成のために、各部会から学校・地域・家庭が連携するしくみがとられています。

2 新宮市立城南中学校PTA活動について

(1) 組織について

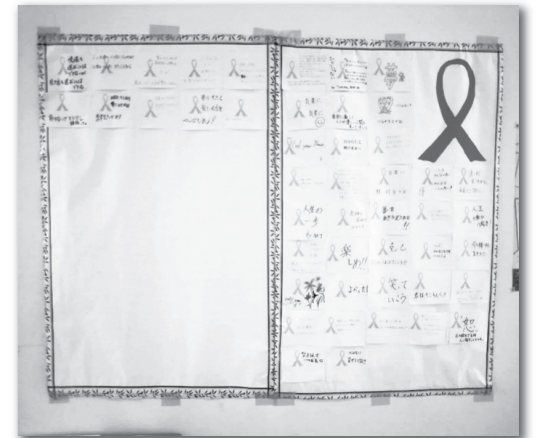
令和2年度の城南中学校PTAのスローガンは『つながり』としています。これは、保護者として、学校と生徒をしっかりとつなぎ、心が温まる教育環境作りに一躍したいという思いを込めています。

PTAの組織の一つである人権部では平成27年度より大きな変化がありました。それは、城南中学校・人権教育部の森浦展行教諭よりオレンジリボン運動の提案を受け、PTA人権部としても協同することとしたことです。オレンジリボン運動とは、2004年に栃木県で幼い兄弟が虐待を受けたために命をおとしたことから始まったものであり、子どもを虐待から守るための運動として年々広がりを見せています。児童虐待の数は年々増え続け、昨年度全国で約16万件、和歌山県では約1200件の報告があがっています。城南中学校にも様々な成育背景を持つ生徒がいる中で、逆境に負けずに生きていってほしいとの願い、虐待のない明るい未来を創ってほしいとの願いを込めて、本活動を行っています。平成27年度から5年を経過し、学校・地域・家庭をつなぐ取組として、また、城南中学校の人権教育の柱として確実に根付いてきたことを感じています。

(2) オレンジリボンの作製

例年10月にPTA人権部と城南中学校人権教育部の先生方が集まり、オレンジリボンを手作りで作製しています。1年ごとに、PTA・教師ともに多少なりともメンバーが入れ替わるので、城南中学校でこの運動を始めた経緯や思いについて学校側から説明があります。その際に、オレンジリボン運動だけでなくさまざまなアウェアネスリボンの活動についても学習を深めることができます。実際の作業はというと、リボンのロールから、8cmほどに切り出し、リボンの形を作り、さらに、安全ピンを接着し完成です。シンプルな工程ですが、リボンの形にすることや安全ピンを付けることにもコツがいります。慣れるまでは不揃いなものもできてしまいますが、一つひとつのリボンに個性ができ、まるでそれが、人間と同じで一人の個性を表すようでもあります。先生方との協働作業も非常に楽しく、子どもへの思いに共感したり、雑談に花が咲いたり、親としての悩みに対し真剣に答えていただいたりと有意義な時間となります。

リボンの他にも、メッセージボードを作製します。子どもの明るい未来を願ったメッセージや、エールなどをカードに記入し、11月中生徒玄関に展示します。メッセージの募集はPTA人権部だけでなく、教職員、文化祭に来場した保護者、学校訪問者や学校関係機関の方からもメッセージをいただいております。生徒の心が温まる言葉がたくさん寄せられています。



(3) PTA会長から生徒へオレンジリボンの趣旨説明

城南中学校の文化祭は毎年11月3日の文化の日に行われます。各学年・各クラスから趣向を凝らした発表・一生懸命な発表を見せていただき、毎年それがたいへん楽しみでもあります。本取組を始めた平成27年度より文化祭の午前の部が終わる際に、育友会長より挨拶をする場を設けています。その中で、保護者を代表してオレンジリボン運動の概要と11月の児童虐待防止月間中、制服の左胸にリボンをつけることを説明しています。





(4) 城南中学校の先生方からオレンジリボンの配布と授業

1月3日の次週、先生方からオレンジリボンを配布していただきます。授業は1年生から3年生までカリキュラム化されており、各学年で異なる内容で学びを深めていただきます。3年間を通して、虐待を正しく理解し、一人ひとりの生命の尊さを知り、自分自身を大切な存在であると受け止められる生徒の育成を目標としています。そのために、まず、1年生は「子どもの虐待について知り、自他の命が尊いものであることを認識する」。次いで、2年生は「オレンジリボンを受けとることで温かくなった気持ちから、リボンを自ら作製し、大切な人に想いを返す」。3年生は、最高学年として、「虐待のない社会をつくるためにどうすべきか」について学びます。安心・安全な家庭で育つ生徒にとっては虐待をはじめとして正しく知る機会となり、虐待を無くしていきたいという思いを持つきっかけとなります。一方で、さまざまな経験をしている生徒にとっては胸がえぐられる思いをさせかねません。そのため、先生方で、過去に虐待をされた経験がある生徒が在籍する場合、事前に学校全体で生徒の背景や学校内外の様子、将来の展望について十分に協議し、授業の実施が適切かどうかを検討していただきます。また、実施する場合は、あらかじめ生徒、保護者、関係機関に学習のねらいやプライバシーについて配慮することを伝え、了解を得ていただいています。さらに、授業後にも該当生徒の様子を継続して観察し、関係者と協議する時間を設けるなどの配慮をしていただいています。

3 取組を通して

毎年、授業後の生徒からは「心が温かくなった」、「親だけでなく、地域の大人が自分たちを守ってくれていることが分かった」などの感想が多数寄せられます。また、PTA人権部の保護者からも「毎年続けていきたい」、「子どもが思ったより素直に喜んでくれてうれしかった」などの反響をいただきます。手作りがゆえに不ぞろいのリボンとなってしまいますが、実際に配布した際、子どもたちはどれが自分の手に渡ろうと大切に受け入れてくれています。そして、11



11月中の1ヶ月間は左胸にリボンを付けた状態で登校してもらいます。生徒が壊れたリボンを修理しながら使ってくれる様子、また、さまざまな経験をしている生徒ほどリボンを大切に身につけてくれている様子を先生方から伺っています。

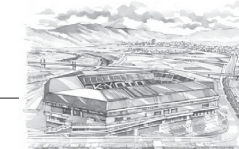
いつの時代でも子どもは地域の宝であり、守っていかねばなりません。オレンジリボンの取組みは、さまざまな立場の大人が持つ共通の「子どもに明るい未来を」という想いを一つに束ねるきっかけとして非常に有効であると思います。

4 終わりに

現在、子どもたちの周りには、スマート機器の発達にともなうインターネット上の書き込みやSNSを通じたトラブルが多くなるなど、私たちが育ったところと



は大きく様子が変わってしまいました。さらに今年度は、新型コロナウイルスの影響のため、さまざまな教育活動にも支障をきたすなど、子どもをとり巻く教育環境は非常に複雑なものとなっています。現場で汗を流す先生方だけでなく、PTAの活動としても、それらの変化に柔軟に対応していかなければなりません。しかしながら、今回のオレンジリボン運動のように、子どもの明るい未来を願うという、普遍的な想いを今だからこそ大切にしていきたいとも考えています。すべての子どもに明るい未来が訪れてほしいという願いを込めて、今後もこの活動を続けていきたいと考えています。そして、子どもたちが大人になった時に、より一層次の世代の子どもを大切に作る社会を作っていってもらえたらと願っています。



分科会

第4分科会
【青少年健全育成】

「新しい時代の市P連の役割」

～臨時休業期間中の「子どもたちの学習保障に関する
アンケート調査」実施による気づき～

京都市PTA連絡協議会 副会長
京都市小学校PTA連絡協議会 会長
京都市立松ヶ崎小学校PTA 会長

大森 勢津

P63

「健全に育つ豊かな環境づくりをめざして」

明石市連合PTA

会長 神足 豊光

P67

分科会

第4分科会
【青少年健全育成】

「新しい時代の市P連の役割」

～臨時休業期間中の「子どもたちの学習保障に関する
アンケート調査」実施による気づき～

京都市PTA連絡協議会 副会長
京都市小学校PTA連絡協議会 会長
京都市立松ヶ崎小学校PTA 会長

大森 勢津

1 はじめに

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、京都市では令和2年3月5日より市立学校・幼稚園の臨時休業措置がとられました。その後、社会情勢の変化を受けて学校再開は延期され、結果的に臨時休業期間は約3か月に及びました。

臨時休業期間が長期化する中、ゴールデンウィーク明けの学校再開が叶わなくなったところ、PTA会員（保護者）の間でも、子どもたちの学習保障について不安が高まっていました。

そのような状況の下、京都市PTA連絡協議会役員会では、各連協（幼・小・中・高・総）を代表し、節目節目に京都市教育委員会と意見交換を行ってまいりました。本来であれば、各連協の理事会や支部活動を通じて、保護者の声を把握すべきところでしたが、単位PTAにおいても活動を自粛している中、そうした取組を行うことにも限界がある状況でした。このため、広く保護者の意見を把握するため、京都市PTAメール配信システム（以下、「PTAメール」という。）に登録している会員を対象としたアンケート調査を実施しました。

本稿では、今回のアンケート調査の結果概要を通して見えてきたことを考察し、これをもって、これからの新しい時代の市P連の役割を見出したいと思えます。

2 「子どもたちの学習保障に関するアンケート調査」概要

回答対象	PTA会員(京都市立学校・幼稚園に通う子どもの保護者)
回答期間	令和2年5月13日(水)11時～令和2年5月19日(火)18時
配布方法	PTAメール(※)
回答形式	Web回答(Google Formにて作成)
設問形式	選択式および記述式
設問内容	・回答者について(子どもから見た続柄・校種・学年・行政区) ・(1)臨時休業期間中について(心配なこと、必要だと思うこと) ・(2)教育活動再開後について(心配なこと、必要だと思うこと)
メール配信数	49,093 通
回答数	21,527 件

(※) PTAメールの利用校数数は次のとおり。
幼稚園（15園／15園）・小学校（151校／153校）・小中学校（7校／8校）・中学校（41校／65校）・高等学校（5校／8校）・総合支援学校（5校／8校）。なお、PTA会員の登録率は各校園によって異なる。



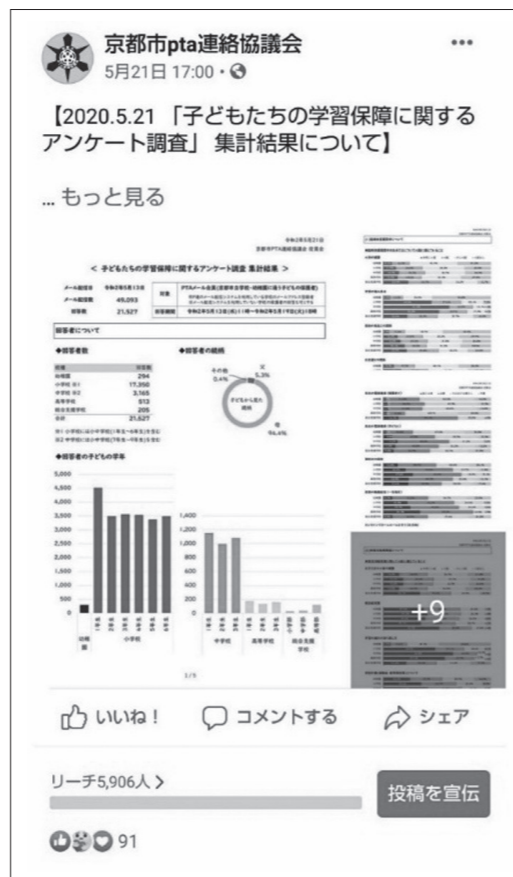
<回答結果概要>

- 幼稚園や総合支援学校の子どもの持つ保護者からは、子どもたちの生命に直結する「心身の健康」や「感染症対策に重点を置いた教育活動」に高い関心が寄せられた。
- 小学校や中学校、高等学校の子どもの持つ保護者からは、学習面へ高い関心が寄せられた。特に最終学年の生徒にあっては、受験や就職という人生の大きな岐路を控えており、切実な声が寄せられた。
- 学習面への関心は、オンライン学習実施の要望にもつながっていた。ICT機器を活用した先進的な取組への期待と共に、誰ひとり取り残さない取組を求める訴えもあった。
- 小学校1年生の保護者からの回答が多くあった(約4千5百件)。小学校への入学という、子どもたちにとって大きな変化の時に、先生やお友だちとの関係が築けておらず、心配が高まっていたと見られる。
- 自由記述の設問には、総計9千9百件の回答が寄せられた。身近で具体的な要望からコロナ後を見据えた大きな展望まで、様々な意見があった。

「子どもたちの学習保障に関するアンケート調査」集計結果



京都市P連 Facebook記事より(令和2年5月21日)



在田 正秀 京都市教育長との談話の様子 (令和2年5月21日)

アンケート結果を、速やかに集計し、アンケート回答期限から2日後の5月21日に、京都市教育長に届けました。当時、教育委員会においても6月1日の学校再開後の教育活動について検討されている状況であり、施策を策定する上で参考にしていただけたよう、「保護者の生の声」を届けることができたと感じています。

引き続き京都市では「学校再開後の感染症対策と学習保障の両立」、「オンライン授業」等の実現に向け、全力で子どもたちの学びと育ちを支える取組を進めています。

3 アンケートを実施したことによる気づき

アンケートを通じて、市P連には以下の役割があるのではないかと考察しました。

① 保護者の思いを伝える受け皿としての役割

PTAメールに登録されている約4万9千人の保護者に対しメールにて依頼したところ、事前予告はなく、また1週間にも満たない期間という緊急の取組にも関わらず、

2万1千件を超える回答をいただきました。特に、依頼メール配信1時間後に5千件、3時間後には1万件を超える回答がありました。このような反応の速さ、反響の大きさからも、先の見えない不安の中、また周囲とつながりを持ちにくい状況の中で、子どもたちの学習保障に関しての不安や切実な思いが高まっており、それをどこかに伝えたいというニーズの受け皿の役割を担ったのではないかと考えます。

② 保護者の多様な意見の担い手としての役割

アンケートを通じて多様な意見が寄せられましたが、大きな傾向としては

- ・学校現場を労う気持ちが強く表れ、その中で必要最低限の学校とのつながりを求める。
- ・徹底した感染症対策の上で、学習、学校生活(人間関係・行事・給食)を取り戻す措置を求める。

といったものでした。これは当時マスコミやネットで取りざたされていた声よりも現実的かつバランスの取れたものと感じました。このことから、PTAは、偏りなく多様な意見を有する保護者の集まりであり、それゆえその意見を集約することで、保護者の現実や実際を体現する役割があるのではないかと考えます。

③ 保護者間の相互理解を促進する役割

大きな傾向があるとしつつ、保護者には多様な考え方があることが分かりました。この多様な考え方を保護者に示すことで、例えば新型コロナウイルスについて心配の強い保護者は、コロナ禍の中でも学校生活を取り戻すことを希望する保護者も多くいることを認識されたでしょうし、またその逆もしかりです。多様な考え方があることをお互いに知ることにより、他者との違いを認め、その存在を尊重する。その結果、全体としての理解を深めることにつながる。そうした役割があるのではないかと考えます。

4 今後の市P連に期待されること

① 全市的な保護者の思いの共有

3の考察から、市P連には、保護者が教育に関する行政への思いを伝える受け皿となり、また、それを広く開示することにより、保護者間の相互理解を促進する重要な役割があると考えられます。

例えばWebアンケート等、現在では多くの保護者の思いを簡便に把握できるツールが存在します。

対面でのやり取りに加え、新しい技術を積極的に取り入れて情報収集をし、発信する。単位PTAの垣根を越えた保護者同士の思いを、これまで以上につなげる役割が期待できると考えます。

② 時代にあった情報共有ツールの提供

①を実現するためにも、情報共有インフラの整備が重要と考えます。

上述の2<回答結果概要>にもあるように、今回のアンケートでは小学校1年生の保護者から多くの回答をいただきました。同様に中学校においても、他の学年に比べ「1年生」の保護者から多く回答をいただきました。これは、年度替わりの時期に臨時休業措置がとられ、PTA活動も難しい中、「新入生」に対し、丁寧にPTAメールの登録依頼をされたものと推察します。単位PTAにおいても情報共有の重要性が広く認識されているということであり、市P連としても提供するメール配信システムに関して、時代と共に変化するニーズに応える必要があると考えます。



5 おわりに

市P連（及び各連協）の活動経費は、単位PTAを通じて個人PTA会員が負担しており、市P連は、個人PTA会員にとって有益なものであるべきです。しかし、個人PTA会員にとって市P連の存在やその価値を認める機会は少なく、さらに単位PTAにおいては、全市・支部活動等、負担を強いる存在と受け止める向きもあります。

PTA活動には「子どもたちを支えるために、保護者同士協力し合うことが重要なので、交流を深めよう」、特に市P連にあつては「課題を共有し、共に解決していこう」という本来の「目的」があり、その「目的」を達成するための「手段」として、各種大会・研修会・行事等が開催されてきました。しかしながら、毎年度構成メンバーが入れ替わり、前例踏襲が慣例となる中、その「手段」が「目的」化してしまい、これがPTA活動に負担感をもたらす一つの要因になっているのではないのでしょうか。

一般のコロナ禍を機に、オンライン化、デジタル化等、新しい技術が目目され、各方面で取り入れられています。市P連もそうした技術を積極的に取り入れ、従来の活動に関しても「手段」の転換を進めていくべきと考えます。

新しい技術により、単位PTAや個人PTA会員への新たなアプローチが実現します。「交流」のあり方についても、負担を軽減し、かつ前向きで楽しい取組へと転換することも可能でしょう。また単位PTAや個人PTA会員に共通する様々な課題に関して広く情報共有することができれば、全体として課題の解決へとつなげることができます。本来、市P連が目指していたことが、実感できる形で迅速に実現できるのです。

さらに子どもたちも今後、従来の対面授業に加え、オンライン授業等、ICT技術を活用した教育を受けることとなります。喜ばしいことではありますが、一方で、保護者と子どもとの間でICT技術に関する知識について、大きな格差が生まれることが予想されます。このことは、例えばインターネットを経由して見ず知らずの人とつながるなど、子どもが危険な状況にあつても、保護者が把握できないという事態を招きます。こうした中、PTAが新しい技術を取り入れることは、広くPTA会員がICT技術に触れる機会を創出し、お互いに学び高め合うことができる、こうした役割も期待できるのではないのでしょうか。

令和2年度はコロナ禍のため、年度初めから何事も例年どおりとは行かず、様々な事態に迅速な対応が求められました。今般の「子どもたちの学習保障に関するアンケート調査」もその一つでしたが、緊急事態だからこそ、新しい取組に果敢に挑むことができる側面もあります。

コロナ禍を奇貨として、PTA活動の本質を見つめ直し、また、新しい時代の市P連の役割について、様々な角度からその可能性を探ってまいりたいと思います。

分科会

第4分科会【青少年健全育成】

「健全に育つ豊かな環境づくりをめざして」

明石市連合PTA

会長 神足豊光

1 はじめに

明石市は、兵庫県南部に位置し、東西の距離は15.6キロメートル、南北は9.4キロメートルと東西に長い地形で、面積は49.42平方メートルあります。瀬戸内海に接する海洋資源に恵まれた海のまちです。

また、市の東部には日本の時間を決める基準となる、東経135度日本標準時子午線が通っています。

2019年11月1日に市政100周年を迎え、人口は299,625人（2020年7月1日現在）と増加を続けており、子育て支援のまちとして多くの取り組みがなされています。

明石市の子育て2大ポイントとして、医療費が中学3年生まで無料、保育料2人目以降無料という経済的な支援を施策とされています。また、子ども食堂を市内全28小学校校区に開設し、0歳児の見守り訪問や支援も2020年10月より開始される予定です。まさに、市が全力を挙げて子育てを支援している環境が整った、保護者にとって住みやすくありがたいまちです。

2 明石市連合PTAの組織や活動について

明石市連合PTAは市内の中学校13校、小・養護学校31校、幼稚園28園、計72校園の各PTAより構成されています。

「育てよう！子どもの夢と生きる力」-学校・家庭・地域社会が一体となって-をスローガンに活動しております。新しい時代に向けて夢を持ち、心健やかにたくましく生き抜く子ども達を見守り、育てるPTA活動を心掛けて様々な取り組みをおこなっております。

また、健全育成教育の一環として、市とも連携し、人権研修会の充実や様々な講演会も実施しております。

学校園や先生方との意見交換なども積極的におこない、保護者が学校行事や見守り活動にも参加しやすいよう校園長先生との連携や情報共有の場を設けています。

地域各種団体の活動にも積極的に参加し、共に学ぶ場を得ることで子ども達に郷土の誇りと地域の方々に育てていただいていることを教えています。

3 幼小中学校部会

明石市連合PTAでは、各幼稚園、小学校、中学校毎に部会を開催し、子ども達や学校の様子を意見交換し、健全育成に役立つよう協議し



第68回定例総会の様子



連合PTA幼小中学校部会の様子



ています。昨年度におこなわれた意見をいくつかご紹介致します。

「自身がPTA会長になって得られた体験やたくさんの繋がり、ご縁ができたことは自らの人生においてかけがえのない経験となった。」「同じ立場の会長同士で意見交換することで、自分だけが悩んでいるのではなく、同じ悩みをもった会長がいることを知り、お互い相談に乗ることができる関係性を築けた。」「それぞれのPTAによって異なる活動を知ることができて、自らのPTAにも取り入れてみようと思うことができた。」「子ども達が今どういうことに興味を持ち、どういうことで悩んでいるのか親に話さない子どもが多い中、同じ世代の子どもを育てる保護者同士でアドバイスができる機会を作っていた。」「などの成果を得られる良い意見がいただきました。

一方で、PTA活動に対する厳しい意見も多くいただいております。明石市では共働き世帯が7割を越え、積極的なPTA活動ができる保護者が少なくなっている現状があります。その中で、役員をしたくない保護者や活動に参加したくないとの意見も多くあります。そういう方々にどのようにお話しして参加していただくのが良いのか悩んでいる会長もたくさんおられます。また、PTA活動自体には参加はしたいが、保護者主体の活動が多すぎて、本来の目的である子どもの成長や教育に直接関係ない行事やイベントもたくさんあり、削減できない負担ばかりが役員にのしかかっているという意見もあります。

私達、連合PTAとしては様々な保護者の声を取り纏め、誰もが参加できるPTAを目指しています。会議や打ち合わせの在り方を見つめ直し、事前の準備等をしっかりおこなうことで、無駄な時間を削減するなど、会議や打ち合わせの見直しに取り組んでいます。

4 明石市連合PTA実践発表会

明石市では各单位PTA活動を広める場として実践発表会をおこなっています。それぞれに特色がある活動をピックアップしていただき、発表していただいております。更に講演会も同日に行い、昨年度は元ヤクルトスワローズの宮本慎也氏にお越しいたいただき、ディスカッション形式で執り行いました。宮本氏より、「選手を育てることと子どもを育てることにおいて共通していることは、できなくて当たり前ということを知覚することである。子ども達のみならず保護者も何度失敗したっていいんだ。失敗しても諦めず腐らず、続けていくことが自身の成長に繋がっていくのだ。」と教えていただきました。PTA活動も同様だと私は考えております。これが正解だという子育て方法はありません。試行錯誤しながら模索していく。その中に喜びを見つけることがPTAの意義だと考えております。

5 まとめ

PTAのおかれている現状は厳しいものです。しかし、保護者同士で課題に向き合い話し合うことで克服できることは必ずあると考えております。保護者が子ども達の夢を尊重し、PTAが実現に向けてサポートしていく。

そういうPTA活動がおこなえれば、子ども達は健全に育っていく。

学校とPTAと地域が一体となって子ども達を見守り続ける。明石市連合PTAは、温かい気持ちを子ども達に与えられる活動を目指しています。



実践発表会のディスカッションの様子

分科会

第5分科会 【広報活動】

『ともに学び、ともに育ち、ともに楽しむPTA活動を目指して』

京丹後市PTA連絡協議会・京丹後市立峰山中学校PTA

令和2年度会長 田中幹士

P70

「保存しておきたくなる広報紙をめざして」

長浜市立長浜小学校PTA

令和2年度広報副委員長 令和元年度・平成30年度広報委員長 立澤竜也

P73



『ともに学び、ともに育ち、ともに楽しむPTA活動を目指して』

京丹後市PTA連絡協議会・京丹後市立峰山中学校PTA

令和2年度会長 田中幹士

1 はじめに

京丹後市は京都府北部に位置し、海や山など自然豊かな町です。16年前の平成16年に、3郡6町が一つの市となりました。市制施行時点で約6万7千人だった人口も、現在では約5万4千人となり学校再配置を行った今、中学校数は旧1町1中の6中学校となっています。

京丹後市立峰山中学校は、丹後半島の中心に位置し「天女の羽衣伝説」で知られる峰山町にあり、全校生徒数334人で学年3～4クラスの中規模校です。京丹後市が進める施設分離型小中一貫教育を6中学校の中で一番に導入し、平成25年より町内4つの小学校を含む峰山学園の峰山中学校として、今年で8年目を迎えています。

2 京丹後市立峰山中学校PTA（峰山学園峰山中学校PTA）の活動について

(1) 峰山学園PTA基本方針

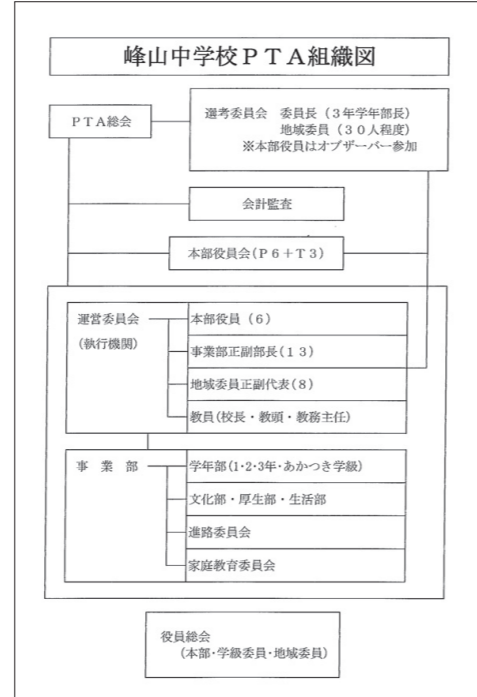
私たちは、学園の教育目標・目指す子ども像に則り、峰中校区の子どもたちが安心して自己肯定感を持ち、将来を展望し、共に学ぶことができるよう活動する。

(2) 峰山学園PTA活動目標

- ①家庭・地域・学校が協力し子どもたちを包み込み、自己肯定感を持ち、将来を展望し、共に学ぼうとする子どもたちを育てるためのPTA活動を積極的に行う。
- ②保・幼・小・中10年間を見通しよりよい子育てができるよう、会員相互でよく話し合い、学び合い、親として高まり合う。
- ③学校及び地域の教育環境整備、子どもの安全確保について積極的に活動を行う。

(3) 組織編成について

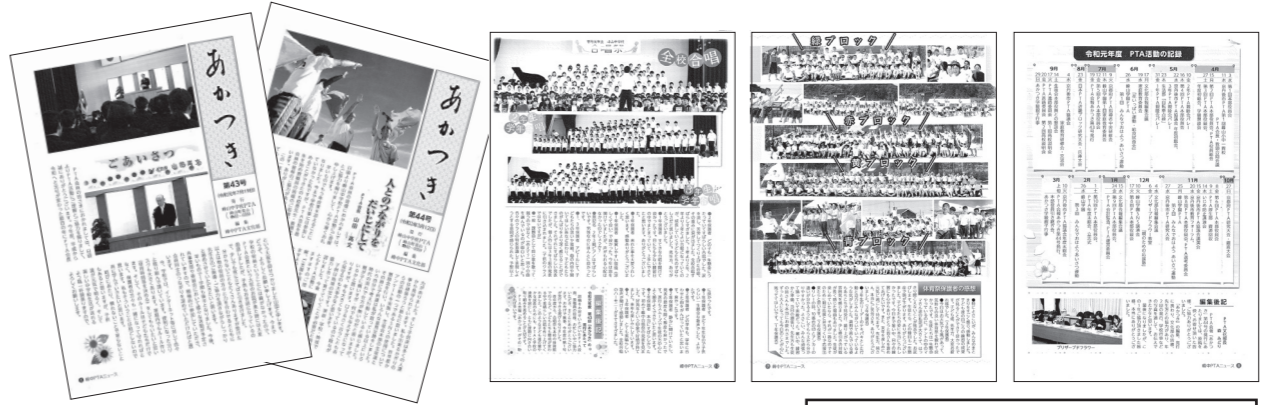
平成28年度までは、校区に6つの小学校がありました。学校再配置により現在は4つの小学校になっています。会員数も減少傾向にあり、そのため本部役員や地域委員の人数や選考規定を少しずつ改正して、組織を再編しています。各事業部の役員数を減らしつつも、活動内容を減らすことなく活動を計画しています。残念ながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、取組の延期や中止を余儀なくされている状況もありますが、内容を縮小するなど工夫して取り組んでいきたいと思ひます。



3 各事業部の取組と広報活動について

(1) 文化部によるPTA会報『あかつき』の発行

毎年PTA会報『あかつき』を年2回発行しています。PTA会長、校長をはじめ会員の声、先生方の自己紹介を掲載し、広報や交流の一助となっています。各事業部の取組や1年間のPTA活動の記録を掲載して、全ての会員に全体の活動の様子が分かるよう努めています。



峰山中学校PTA会報「あかつき」

(2) 厚生部による資源回収の取組

年間を通して資源回収に取り組んでいます。学校の敷内に回収場所を設置して、我が子の送り迎え時や週末に資源を届けるようにしています。また年に1回、町内の7か所の回収場所を設定して資源回収を行っています。PTA特別会計として、毎年少しずつ部活動のユニホーム等を新調しています。



厚生部のチラシ

(3) 生活部によるあいさつ運動

峰山学園みんなでおはよう運動として、校区の4小学校PTAと協力し、学期に一回(年3回)の登校指導と声掛けあいさつ運動を実施しています。小中一貫教育の良さをいかして、小学校PTAも中学校PTAも一緒になり、小中学生の区別なくおはようの声掛けを全会員にお世話になっています。



家庭教育委員会のたより

(4) 家庭教育委員会による花いっぱい運動と給食試食会

子どもたちの心にゆとりが生まれるように、毎年6月頃「花いっぱい運動」としてプランターに花を植え、校内に設置しています。また、その日に給食試食会を実施しています。子どもたちの配膳の様子を見学した後、同じ献立の給食を試食する取組です。残念ながら、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため給食試食会は中止となりましたが、来年度は再開できることを願っています。

家庭教育委員会だよりは、年3回発行しています。



(5) 進路委員会による高校説明会

夏休みに近隣の高等学校が実施する体験セミナーは日中に行われるため、なかなか都合がつかず我が子の志望校のことが詳しく分からない会員のために、夜に進路説明会を実施しました。公立私立問わず近隣の高等学校の先生に中学校に来ていただき、中学校での開催としています。特に近年は、生徒数減少にともなう高校再編が行われ新しい高等学校の設立や2校が1校となりながら別々の校舎で学ぶ学舎制の導入など、自分たちの時代と大きく変化している今の高等学校の様子を学びました。

4 終わりに

PTAの活動は、直接目に見えて子どもたちに届くものばかりではありません。しかし、常にその向こうには子どもたちの笑顔を中心に見据えています。役割分担という形で参加する取組が異なっても、それぞれの活動が自らしっかり広報活動を行えば共に安心して活動を行うことができます。

これからも、ともに学び、ともに育ち、ともに楽しむPTA活動を目指していきたいです。

嵯山中PTA
進路委員会ニュース

令和元年9月13日(金)

部活の最、保護者の皆さまにおかれましては、盛にご愛顧のこととお慶び申し上げます。日頃は、嵯山中PTAに感謝し、ご理解ご協力を賜りありがとうございます。夏休み期間中に活動させていただきます保護者が集まりました。中学校卒業後の進路(高校進学)についての必要事項を説明いただき、思いやりのある先生たちと話をさせていただいております。何とぞご都合がございましたら、たくさんのご質問をお聞かせください。

9月17日(火)保護者用

時間	高校
19:30~19:50	海洋高校
19:50~20:10	福知山康徳高校
20:10~20:30	京都瑞星高校
20:30~20:50	宮津実業高校
20:50~21:10	宮津学舎加悦谷学舎
21:10~21:30	日星高校

9月20日(金)保護者用

時間	高校
19:10~19:30	嵯山高校
19:30~19:50	舞鶴工業高等専門
19:50~20:10	福知山成美高校
20:10~20:30	丹後緑風高校
20:30~20:50	久美浜学舎網野学舎
20:50~21:10	京都共栄学園高校
21:10~21:30	清新高校

進路委員会のニュース

分科会

第5分科会【広報活動】

「保存しておきたいくなる広報紙をめざして」

長浜市立長浜小学校PTA

令和2年度広報副委員長 令和元年度・平成30年度広報委員長 立澤 竜也

1 はじめに

長浜市立長浜小学校(以下、長浜小学校)は、1871年(明治4年)に滋賀県最初の学校、「滋賀県第一小学校」として創立されました。

以降、移転改築を経て、1947年(昭和22年)に「長浜市立長浜小学校」に改称され、現在に至っております。令和3年度には創立150周年の節目を迎えようとしている伝統ある小学校です。



長浜小学校のある長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接しており、自然環境も豊かな、県内有数の交通の結節点です。

また、長浜城や小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、竹生島の宝厳寺、渡岸寺の国宝十一面観音をはじめとする数多くの観音が祀られる観音の里など、すぐれた歴史的遺産のある地域としても知られています。

現在の長浜市は2010年(平成22年)に旧長浜市、東浅井郡虎姫町、東浅井郡湖北町、伊香郡高月町、伊香郡木之本町、伊香郡余呉町、伊香郡西浅井町の1市6町が合併して誕生し、11万人を超える(平成27年国勢調査118,193人)人口を有しております。

長浜小学校はそんな長浜市の中でも、旧長浜市街地と呼ばれる地域にあり、駅や商店街など古くからの長浜中心市街地の学び舎として歴史を刻んでまいりました。

学区の環境としては、年間約200万人が訪れ、滋賀県を代表する観光地域になっている「黒壁スクエア」や、市役所、長浜駅など長浜市中心地としての多くの歴史文化や機能に囲まれています。

また、平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録され、江戸時代から脈々と長浜の人びとに受け継がれてきた「長浜曳山祭」が開催されるなど、町人文化が色濃く残る地域としての特徴もあります。

そんな地域柄のためか、PTA活動以外にも、様々な地域コンテンツの運営で、保護者同士が顔見知りであることが多く、古くから多くのコミュニティが活発な活動を行っている地域であるといえます。地域住民の情報共有がしやすく、伝統を守りながらも新しいことに挑戦していく学区風土です。

2 組織と運営について

本年度の本校児童数は833名(令和2年9月2日時点)。

PTA諸活動を通じ、保護者、児童、先生、地域の方々の絆の輪を広げ、より良い



学校生活や環境づくりを目指しています。組織は以下のとおりです。

- ・ P T A会長（1名） ・ 副会長（3名）
- ・ 学年委員会（2名）
- ・ 地区委員会（2名）
- ・ 厚生委員会（3名）
- ・ 広報委員会（2名）
- ・ 事務局（4名）
- ・ 監事（2名）
- ・ 顧問（3名）



3 P T A活動について

長浜小学校のP T A活動も、新型コロナウイルスが猛威を振るう今年度は、例年とは大きく異なり多くの活動を自粛せざるを得ない状況となっております。そんな最中にはありますが、児童や保護者の心のケア、学校運営のお手伝いなど、できることを積極的に行っております。

本年度の主な取り組みとして、オンラインでのP T A会合の開催、書面によるP T A総会の開催、ソーシャルディスタンスを確保しての6年生の思い出づくりのお手伝いなどの活動を行ってまいりました。

例年の主な活動としては、1学期の最終日に行う夏まつりの開催、清掃活動、文化芸術祭など。

継続して行っている行事の他には、近年の大きな課題である、交通安全、防災、S N Sをテーマとした会議、講演会を地域関係機関との共同により開催し、子どもたちの安心安全に配慮した取り組みを行っています。

各委員会の主な活動内容は以下のとおりです。

- 【P T A全体】 長小ふれあい夏まつり、長小運動会協力、長小ふれあい文化芸術祭、防災体験授業
- 【学年委員会】 学級懇談会開催
- 【地区委員会】 あいさつ運動
- 【広報委員会】 広報誌「あさかぜ」発行
- 【研修委員会】 給食試食会開催
- 【研修委員会】 S N S講演会開催

4 広報活動について

主な広報活動は、年間5回の広報誌の発行です。

4月ミニあさかぜ先生紹介号、7月あさかぜ1号（事業報告）、9月あさかぜ運動会特別号、12月あさかぜ2号（事業報告）、3月あさかぜ3号（事業報告）となっております。

本年度は、新型コロナウイルスの影響によるP T A事業縮小のため、通常のあさか



ぜ発行は休刊となり、4月ミニあさかぜ先生紹介号、9月あさかぜ運動会特別号、のみの発行となりました。

長浜小学校の広報あさかぜは2016年度より連続3年間、滋賀県P T A連絡協議会主宰の広報紙コンクールで優秀賞をいただいております。全国の広報紙コンクールにも出品していただくなど、大変光栄な賞を受賞いたしました。

広報紙の特徴としては、できるだけ多くの写真や図を使用し、文字よりも視覚で伝えるデザインを心がけていることです。

長浜小学校の保護者の中には海外から移住された方もおられ、文字ばかりの広報紙ではせっかくのP T A活動が伝わりません。そこで写真を中心とした広報紙の制作を心がけるようになりました。

またせっかく制作した広報紙を、「読まずに捨ててしまわれることはなんとしても避けたい!!」という強い思いから、「保存しておきたい広報紙」を目指し紙質や表紙のレイアウトにも力を注いでいます。

広報委員会だけでは補いきれない写真撮影などは、他のP T A委員会様のご協力もいただきながら「目で見える広報紙・捨てられない広報紙」を目標に、楽しく制作を進めております。

5 今後への課題と希望

今後、保護者の多様化や、環境にやさしいペーパーレスな活動が中心となる中で、「広報活動」そのものの形を見直す必要があるのではないか、と考えています。

例えば、プライバシーに配慮した、学校関係者だけが閲覧できる会員制のP T AのWEBサイトを制作し、広報活動を印刷物だけではなく、スマートフォンからでも知ることができる仕組みや、広報誌そのもののデータ化による多言語対応などを行っています。

また、学校行事で撮影した写真を、自由に共有できるS N S機能を持ったWEBページを制作し、多くの保護者さんに情報によるP T A参加をうながす活動を行っています。

さらに、同じサイトを使用して、広報用に撮影したけれど、実際は使用されなかった多くの廃棄写真を共有し、もっと多くの情報を提供する考えです。

他にも、Y o u t u b eなどを利用し動画による活動報告など、時代に合わせた「広報のスタイル」の検討が必要ではないでしょうか？

広報活動に限らず、少子高齢化が進み、P T A活動の負担が大きくなっていく中で、積極的にデジタルツールを活用し、「負担を減らしながらもクオリティを上げる」取り組みができるよう、より良い子どもたちの未来のために、思案や議論を重ねていきたいと思っております。





分科会

第6分科会
【特別分科会】

「子供たちと取り組む脱プラスチック
～かめおかプラスチックごみゼロ宣言の挑戦～」

- 大阪商業大学公共学部准教授
- 前亀岡市立安詳小学校PTA会長
- 特定非営利活動法人プロジェクト保津川代表理事 原田 禎夫 氏

P77

分科会

第6分科会
【特別分科会】

「子供たちと取り組む脱プラスチック
～かめおかプラスチックごみゼロ宣言の挑戦～」

講師 原田 禎夫 氏

大阪商業大学公共学部准教授、
前亀岡市立安詳小学校PTA会長、
特定非営利活動法人プロジェクト保津川代表理事



1 はじめに

世界的な問題となっている海洋プラスチック汚染ですが、海のプラスチックごみの約8割は陸域から川を通じて流れ出したものと言われています。保津川下りやトロッコ列車、ラフティングに多くの観光客が訪れる保津川でも、1990年代後半からレジ袋やペットボトルといったごみが急増していました。そんな中、たった一人の船頭さんから始まった清掃活動は、やがて町を挙げたプラスチックごみ削減の取り組みへと広がっていきました。亀岡市では2018年12月に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」が発表され、今年3月には日本初となるプラスチック製レジ袋の提供を禁止する条例が制定（2021年1月施行）されるなど、国内外から大きな注目を集めています。この一連の取り組みには、亀岡の子供たちの環境学習も大きな役割を果たしてきました。

2 保津川のごみ問題と子供たちの環境保全活動

保津川下りの開航400周年にあたる2006年、亀岡市ではさまざまな記念行事だけではなく、初めて船頭さんや行政、そして多くの市民が参加する清掃活動や生き物調査なども行われ、たくさんの子供たちも参加しました。それをきっかけに保津川の環境保全運動は大きく広がっていきます。特に、年々深刻化するごみ問題の解決は待ったなし、という状況でした。2012年には、内陸部初開催となる「海ごみサミット」が亀岡市で開催され、国内外から500名を超える関係者が集まり、「内陸部からの海ごみをどう減らすか」について議論が交わされました。この時「こども海ごみ探偵団」が結成され、亀岡の子供たちが、保津川や瀬戸内海でごみ調査を行い、その成果を会議で報告しました。「こども海ごみ探偵団」は、その後毎年開催されていて、貴重なごみのデータを集めてくれています。「こども海ごみ探偵団」や自治会、NPOの調査で明らかになったことの一つは、保津川のごみでもっとも多いのはレジ袋である、ということでした（図1）。一連の成果は、市の政策立案においても貴重なデータとして活かされています。

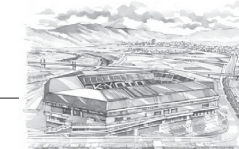
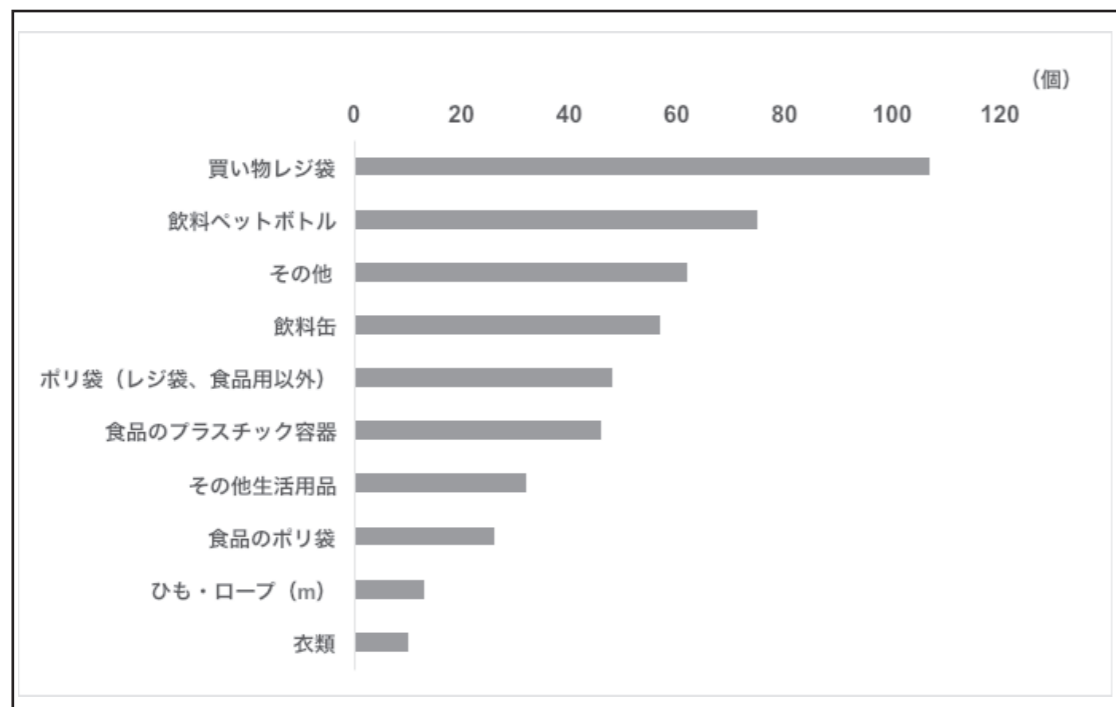


図1 保津川のごみ（破片類を除く上位10品目）



（調査日：2018年11月11日、提供：川と海つながり共創プロジェクト）

3 地域が一体となった環境学習の展開

現在、亀岡市では、幼・保育園から高校まで、学校だけではなく、保護者のみなさんや、行政、NPO、企業と連携した環境学習が展開されています。私自身も、先生方と共に小学校を中心に環境学習に取り組んで来ました。たとえば、亀岡市では、5年生は若狭湾での野外学習に出かけますが、事前学習もかねて多くの学校では海のプラスチック問題についての授業が行われています。今年はコロナ禍で泊まりがけでの野外学習はなくなりましたが、その代わりに保津川下りの船に乗って保津峡のごみ調査を行って下さった学校もありました（図2）。また、普段、地域のごみ回収に当たっている亀岡市環境事業公社も積極的に環境学習の支援に取り組んで頂いており、市長や市議のみなさんとの討論や、市内のお店、新聞記者さんへの取材といった興味深い取り組みも行われています。



図2 詳徳小学校5年生による保津峡のごみ調査
（提供：亀岡市立詳徳小学校）



図3 「プログラミングで海のSDGs」のようす
（提供：（一社）一般社団法人 イエローピンプロジェクト）

また、昨年からは（公財）日本財団の支援を受けて、NPOとともに夏休みに「プログラミングで海のSDGs」というイベントも開催しており、情報通信技術が環境問題の解決にどのように役立つのか、最先端の学びも展開しています（図3）。

そんな中、世界的なIT大手のアドビ社が昨年度開催した「Hello! SDGs クリエイティブアイデアコンテスト」では、私もいっしょに川のごみ調査に取り組んだ東別院小学校のみなさんの「Our SDGs 私たちの提案する 豊かで幸せな未来」が小学校部門の最優秀賞に輝くという嬉しいニュースもありました。

4 おわりに

残念なことに、日本では、環境対策を進めることは、「生活の質を下げる」ものであると多くの人考えている一方で、世界の人々の多くは「生活の質を高める」ものであると考えているという調査結果もあります¹。いつの間にか、私たち日本人は「現在」のことしか考えられなくなってしまったのかもしれない。ネイティブ・アメリカンには「どんなことも、7世代先まで考えて決めなければならない」という教えがあるそうです。

「こんな地球にできてしまっておめんなさい」と子供たちに謝らなくてもすむように、これからも地域のみなさんとともに環境学習を楽しく進めていきたいと思えます。

¹ World Wide Views (2015) “World Wide Views on Climate and Energy”
<http://climateandenergy.worldviews.org/results/>